

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 103	提案機関名 神奈川県山林種苗協同組合
要望問題名 無花粉ヒノキ苗木生産の早期実用化について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 無花粉スギの苗木生産については、鋭意研究に取り組んでいただいているところです。一方で、無花粉ヒノキの生産は実用化段階には至っていない現状であります。 今後、花粉症対策として更なる効果を上げるには、無花粉ヒノキ苗木の早期生産が必要とされると思慮されます。無花粉ヒノキは、平成25年度に全国で初めて発見されていますが、種子及び挿し木による苗木生産の実用化に取り組むことを要望します。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 特定受託研究費（革新的技術による無花粉スギ苗木生産の効率化・省力化と無花粉品種の拡大）			
対応の内容等 無花粉ヒノキは、全国に先駆けて平成24年に発見しましたが、これまでに品種登録出願に必要な特性の調査、増殖に必要なさし木試験と採穂木等の育成を進めてきました。この結果、平成30年度中に品種登録出願が実施出来る見通しであり、試験的な生産は可能になる見込です。発見した無花粉ヒノキは両生不稔といって種子も形成出来ない品種であることから、さし木による増殖を行う予定であり、これまでに育苗箱を用いた通常の手法によるさし木では生産可能であることがわかっています。現在コンテナ苗による育苗方法の検討を進めており、より効率的な育苗方法の検討を進めてまいります。 また、あわせて種子による無花粉スギ生産を目指し、種子生産可能な無花粉品種の選抜を進めてまいります。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			